

1. 京都外国語大学

テーマ	GRIT（やり抜く力）と GPS Academic の各スコアの関連	
発表代表者	稲垣 勉 京都外国語大学 外国語学部 教養教育 准教授	
連名発表者	古谷 国大 京都外国語大学 総合企画室 IR 推進グループ	
キーワード	やり抜く力	GRIT
	GPS Academic	汎用的能力
発表の概要	<p>本年度より、本学では新たな試みとして新入生を中心に、長期的な目標に対する Consistency of Interests（興味の一貫性）と Perseverance of Effort（努力の粘り強さ）からなる GRIT（Duckworth et al.,2007; 本邦では「やり抜く力」などと訳される）を測定し、その伸長を検討していくこととした。初年度のため、その伸長については今後のデータの蓄積が待たれるが、本発表では試みに、汎用的能力を測定する GPS Academic とグリットの相関関係を検討した。その結果、GRIT は GPS Academic の「思考力」とはほとんど相関を示さなかった一方、「姿勢・態度」および「経験」とは一定の正の相関を示すことが確認された。</p>	

2. Kyoto University of Foreign Studies ※English presentation

テーマ	Collaborative Online International Learning Projects	
発表代表者	Lynsey Mori Assistant Professor, Department of American and British Studies	
キーワード	COIL	English as a lingua franca
	Team building	Respect
発表の概要	<p>This poster presentation will display the COIL (Collaborative Online International Learning) projects that took place during the academic year of 2022-23. These self-motivating projects use real-life cultural exchanges and up to date technology trends utilizing English as the lingua franca. These projects can assist students for studying and working in international situations. The presentation will highlight one 6 session project that worked synchronously and asynchronously with a university in Thailand and could easily be adapted by others willing to coordinate and collaborate.</p>	

3. 同志社女子大学

テーマ	学部学科の特性に適した授業形態とは？ —同志社女子大学における 2021 年度秋学期遠隔・対面授業についての学生の意識調査をもとに—	
発表代表者	倉橋 優子 同志社女子大学 生活科学部 食物栄養科学科 准教授	
連名発表者	橋本 秀実 同志社女子大学 看護学部 看護学科 准教授 Lisa Rogers 同志社女子大学 現代社会学部 社会システム学科 准教授 成橋 和正 同志社女子大学 薬学部 医療薬学科 准教授	
キーワード	遠隔授業	対面授業
	研究プロジェクト	質問紙調査
発表の概要	2020 年以來、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため、教育の現場では授業形態を劇的に変えることを余儀なくされ、多くの大学が従来の対面から遠隔授業への変更、またはその混合型（ハイブリッド型またはハイフレックス型）を迫られた。本研究は、そのような遠隔・対面授業の将来的な在り方について、2021 年度より同志社女子大学の 6 学部からの代表 7 名により結成された「Connections and Visions 2023」研究グループによる総合的研究の中から、2021 年度秋学期授業を対象とした調査のデータをもとにした発表であり、昨年度発表（第 27 回 FD フォーラム・ポスターセッション）の継続研究という位置づけである。昨年同様、6 学部の学生を対象に独自開発の質問紙をもとに調査を行った結果分析（計 529 名）について、特に「学部学科の特性に適した授業形態」という観点から発表を行う。	

4. 京都薬科大学

テーマ	実験実習教育における動画教材の開発と今後の展望	
発表代表者	高田 哲也 京都薬科大学 学生実習支援センター 助教	
連名発表者	高尾 郁子 京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 河野 享子 京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 平山 恵津子 京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 徳山 友紀 京都薬科大学 学生実習支援センター 助手 金瀬 薫 京都薬科大学 学生実習支援センター 助教 木村 徹 京都薬科大学 学生実習支援センター 准教授 藤原 洋一 京都薬科大学 学生実習支援センター 教授	
キーワード	実験実習教育	実験操作
	動画教材	自主学习
発表の概要	<p>実験実習教育では、講義で学んだ理論を、実験を通じて検証・体験することにより、知識の深化や知的好奇心等の醸成、実践力や応用力を育むことを目指している。そのため指導内容は実験で用いる理論はもちろんのこと、基本的な器具・機器の取扱い、実験手法や心構えなど項目は多岐に及ぶ。とくに実験操作は文面だけでは理解が難しいものも多いため、視覚的に理解を促す教材が有効的だと考えられる。また限られた実習時間の中で、これらの項目すべてを対面で説明し指導することは難しく、実習前後の自主学习等で補完することが必要不可欠であった。</p> <p>そこで学生実習支援センターでは、学生が効率よく効果的に実習を受講できるように、実際に学生の用いる実験器具や機器を用いて、独自の動画教材を作成し実習の補助に活用している。本発表では、当センターの取り組みを紹介しつつ、今後の展望について報告する。</p>	

5. 京都産業大学

テーマ	学生ファシリテータが初年次生向けキャリア教育プログラム受講生にもたらすものと理想的な受講生支援のあり方	
発表代表者	宮本 康太郎 京都産業大学 経済学部 2年	
連名発表者	西野 貴翔 京都産業大学 国際関係学部 1年 梶浦 真琴 京都産業大学 文化学部 1年 清水 菜未 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 (F工房) 職員 大島 和美 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 (F工房) 職員	
キーワード	ファシリテーション	「自己発見と大学生活」
	受講生支援	教員と受講生の間の存在
発表の概要	<p>本学の初年次生向けキャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生活（以下、自己大）」では自分が望む将来像を描き、それに向けた学生生活の目標を見つけ出すことを目的にしている。学生ファシリテータ（以下、学ファシ）は、無償のボランティアスタッフとして「自己大」でアイスブレイクの運営や大学生活での体験談スピーチ、グループワークのサポートを通じて受講生の主体的な学びを支援している。</p> <p>私たちは「自己大」に学ファシが存在するのは当たり前と思っていたが、受講生や学ファシの話から、本当に必要なのかと思うことがあった。この考えから、学ファシによる「自己大」の受講生支援は、受講生にとって有益なのか、学ファシにとってどのような学びがあるのかについて探究する。</p> <p>本発表では学ファシが受講生にもたらすものと学ファシ自身の学びについて調査を実施し、「自己大」における学ファシの理想的な受講生支援のあり方を学ファシ視点から提案する。</p>	

6. 京都産業大学

テーマ	グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ LINK の活動報告 ～LINK によるイベントの紹介～	
発表代表者	川島 美和 京都産業大学 国際関係学部 国際関係学科 4年	
連名発表者	李 京兆 (リ・ケイチョウ) 京都産業大学 経済学部 経済学科 4年 劉 海粟 (リュウ・カイショク) 京都産業大学 文化学部 京都文化学科 2年 原田 優音 京都産業大学 外国語学部 ヨーロッパ言語学科 スペイン語専攻 1年 杉江 昌子 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 グローバルコモンズ 学習支援担当	
キーワード	グローバルコモンズ (GC)	学生スタッフ
	学生の主体的な学び	成長実感
発表の概要	<p>グローバルコモンズ学生ボランティアスタッフ「LINK」は、2021年4月に活動を開始し、これまで、語学力向上や異文化理解等、楽しく学び合いながら互いにつながるイベントの企画・実施を数多く行ってきた。本発表では、LINK イベントをいくつか取り上げ、我々学生が LINK 活動から得た学び、成長について、エピソードを交えながら共有する。さらに、活動を振り返ることで気づいた、改善点、新たに挑戦してみたいこと、達成したい目標についても、学生個人と LINK スタッフとしての両方の視点から伝える。大学における学生の主体的な活動の実例として、イベント実施者である我々学生自身が、等身大の LINK 活動の実態や魅力について学生目線で発表し、学生ボランティア活動の持つ意義や重要性を伝えたい。また、今後の活動の参考とするために、様々なご意見をいただきたいと考えている。</p>	

7. 京都ノートルダム女子大学

テーマ	企業・地域と連携した PBL 型授業「キャリア形成ゼミ」の実践報告 —草創期から現在に至るまで—	
発表代表者	濱中 倫秀 京都ノートルダム女子大学 ND 教育センター／キャリアセンター 准教授	
連名発表者	河野 羽衣 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 心理学科 3年	
キーワード	PBL 型授業	地域連携
	産学連携	コロナ禍
発表の概要	<p>京都ノートルダム女子大学では、約 10 年前より企業や地域と連携した PBL 型授業「キャリア形成ゼミ」を開講している。シラバス記載の教育目標は、「社会で必要とされる社会人基礎力の中で、特に実践力を身につけること」としている。実際の授業内容は、学生が実社会で活動するプロジェクトをゼミとして設定し、各ゼミにおいて企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験している。</p> <p>スタートしてから約 10 年が経過し、毎年少しずつ入れ替わる委託先（提携先）の担当者ともまめに協議を重ねて内容をブラッシュアップしてきた。昨年度は過去最多の履修者となり、全国ネットの TV 番組でも取り上げられた。草創期からこれまでの総括・見えてきた課題と今後の展望を、履修者の声を交えて発表する。</p>	

8. 京都文教大学

テーマ	ワークショップの企画と運営を通じた大学間交流の取組み —京都文教大学と京都産業大学の学生交流プログラム—	
発表代表者	中西 勝彦 京都文教大学 総合社会学部 助教	
連名発表者	高橋 利英 京都産業大学 経営学部 3年 細川 紗妃 京都産業大学 法学部 3年 中村 慎之助 京都産業大学 経営学部 2年 篠部 俊秀 京都文教大学 総合社会学部 2年 森崎 結太 京都文教大学 総合社会学部 2年 清水 菜未 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 (F工房) 職員 大島 和美 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室 (F工房) 職員	
キーワード	大学間交流	プログラム・デザイン
	ファシリテーション	PBL
発表の概要	<p>京都文教大学で開講している PBL 型科目「プロジェクト科目 I B——対話を促すワークショップの運営クラス」では、受講生が京都産業大学の「学生ファシリテータ (学ファシ)」を対象としたワークショップの企画と運営を行い、両大学の学生が交流するイベントを開催した。イベントは、プログラム・デザインやファシリテーションの理解を深めることを目的に、以下の流れで行った。①学ファシから寄せられた要望をもとに受講生がワークショップを企画、②企画書を学ファシに提示し、投票で選ばれた2つのワークショップをイベント当日に両大学の学生で体験、③体験を振り返り、ワークショップの企画と運営のポイントを共有する。イベント当日は、学ファシ有志がイベント全体の進行を担当し、学生同士の交流を促進した。</p> <p>本発表では、イベントでの学生の学びをアンケートと参加者のリフレクションをもとに整理し、他大学の学生と交流する教育的意義について報告する。</p>	